



〈雑録〉英獨抗爭ノ豫言者トシテノフリードリヒ・リストノ主張(2)

高島, 佐一郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 21(2):309-315

(Issue Date)

1916-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052574>



雜 錄

英獨抗爭ノ豫言者トシテノフリードリヒ・

リストノ主張 (其二)

商學士 高 島 佐 一 郎

四

リスト既ニ先覺ノ國士トシテ、アダム・スミス一派ノ利己の個人主義ト國家無視の世界主義トノ主張ノ爲メニ、敢テ之ヲ犠牲タラシメテ憚ラザリシ、國民的及ビ國家的生活ノ重要ナルヲ力說シテ舌端光燄ヲ吐クコト盛ンナリ。實ニ獨逸ノ近世史其ノ者ハ、其ノ經濟學者ノ論調ヲシテ國家主義タラシメズンバ已ム能ハザルモノアリシト雖モ、怪傑奈翁ノ去ルヤ、直チニ此ノ國家的生活ノ重要ナルヲ鼓吹シ、國家的感情ヲ濃厚ナラシメタルノ功、没スベカラズ。サレド頭腦ヲ冷靜ニシテ、姑ラク渠ノ經濟階段發展ノ所論ヲ閱ミスレバ、鴻儒マーシャル教授ガ指摘シタリケル、疑義ニ逢着セザルヲ得ザラン。蓋シリストハ、各國ハ英國ガ經過セルト同一ノ發展階段ヲ經過セザルベカラザルコトヲ豫斷シタレバナリ。斯クシテ經濟上ノ後進國民ガ就キテ學ブベキハ、先進國民ノ行ヒツ、アル同時代ノ施設ニアラズシテ、却ツテ先進國民ガ曾テ後進國民ノ現ニ彷徨スルト同一經濟狀態ニアリ

シ時代ノ施設政策ニ存スルコトヲ解説シタルナリ。然ルニマ教授ハクニース教授ノ所論ヲ引用シテ通商ノ發達及ビ交通機關ノ改善ハ相俟ツテ、各異ノ國民ノ發展ヲシテ同時發生的ナラシムト云ヒ、「リストガ、各異ノ國民ノ經濟的發展ヲシテ同時併發的タラシムベキ、近世交通ノ勢力趨向ヲ看過シタルコト」ヲ難ズ。然ナガラマーシャルノ認ムルガ如ク、リストノ論理方式タリシ、比較的歷史的研究ハ爾來獨逸經濟、歷史及ビ法律學者ノ信奉スル所トナリ、其ノ思想ノ直接及ビ間接的影響ハ寔トニ甚大ナルモノアリ。(Marshall, Principles, pp. 753, 767.)

斯クノ如ク、リストノ獅子吼シタリケル經濟論策ノ主張ハ、直接獨逸國民ノ心理ヲ左右セルノミナラズ、間接ニハ英語國民ノ胸臆ニ印象セシメタリ。加之、渠ガ當局ノ忌憚ニ觸レテ永ク米國費府ニ放浪スルヤ、筆ニ舌ニ、保護政策ノ爲メニ熱論ヲ絶タズ、米國ノ製造業者ハ翹望シテ其ノ說ヲ聽キ、更ニ一八二七年、其ノ著「新系統經濟概論」[*Outlines of a New System of Political Economy*、費府ニ於テ出版セラレ、且ツ渠ノ通俗的論策ガ米國上下ニ行ハル、ヤ、其ノ名聲大ニ揚レルト共ニ、米國實際界ニハ保護論ノ遽カニ横行スルヲ見ルニ至レリ。又タマーシャルハ、克ク其ノ間ノ消息ヲ論斷スル所ナカリシト雖モ、カノリカード及ビマルサスノ純理ニ對シ若干ノ疑義ヲ挾メルヲ以テ本邦ニ周知セラル、ヘンリー・ケリーノ試ミタル熱烈ナル保護貿易論ハ亦タリストノ所說ニ影響セラレタルコト、否ムベカラザルニ似タリ。

經濟政策上ニ試ミタルリストノ所論、大率上來ノ如シ。然ルニ翻ツテ其ノ國內政治ニ對スル主張窺ヘバ、其ノ貿易政策ニ於ケルトハ全ク黑白相反シ、凡ツ「一層ノ自由ヲ目標トセザル」モノナキ

ヲ見ルベシ。此ノ點ハ今日ノ獨逸ノ思潮ニ反シ、寧ロ英國ノ思想傾向ニ類ストヤ言ハン。曰ク思想ノ自由、曰ク學問ノ自由、曰ク「言論ノ自由」、曰ク「政府干涉ヨリノ自由」、曰ク「自由ナクンバ鞏固ナク政體ナク眞ノ文化起ラズト。即チ知ル、政治上ニ於テハ、リストハ熱心ナル英國憲法殊ニ司法制度ノ嘆美者ナリシコトヲ。而カモリストニ多トスベキハ、英國ノ政體ヲ嘆美スルモ極端ナル議院政治ヲ賛セズ、永ク米國ノ政治ヲ目撃スルモ共和政體ヲ排シ、終始一貫、普魯西ヲ中心トセル獨逸帝國ノ成立ト、ホーヘンフホルレン家ヲ宗トスル立憲政體トヲ主張シ熱望シテ、須ラクモ其ノ説ヲ渝ユルナカリシコト是レナリ。

獨逸民族ノ統一ニシテ、一度ビ成立セル曉、新獨逸ノ國運ヲ隆昌ナラシムルノ策トシテ、リストノ熱望セルモノ凡ベテ三。即チ海外駐在ノ領事官ヲ増加スルハ其ノ一、移出民ヲ盛ンナラシムルニヨリテ海外ニ對スル平和的侵略ヲ行フハ其ノ二、大海軍ノ編成ハ其ノ三ナリトス。多數ノ領事官ヲ多數邦國ニ派遣スルヲ力説セルハ、以ツテ海外貿易ヲ伸張シ、一旦緩急アラントキ非常ノ軍略上經濟上ノ幫助タルベク、又タ海外移民ノ流レヲ最モ有利ニ指導スルノ所以ナリト信ズルニ出デタルモノナルガ、茲ニ注意スベキハ、リストガ獨逸移民ノ米國ニ向フヲ悅バザリシコトナリ。蓋シ米國ノ國土ガ外國人ニ對スル同化力ノ偉大ナル「獨逸移民ガ其ノ孫ノ代ニ至タレバ、渠等ガ獨逸語ヨリモ英語ヲ語ラントスルノ傾向ヲ憂ヘタルニ由ル。今日ヨリ之ヲ見レバ、一種ノ時代錯誤ノ觀アルベクレド、其ノ一面ノ眞理ヲ藏スルハ爭フベカラズ。唯ダ現今在米ノ獨逸系米人二千萬人ガ、祖國ノ爲メニ、如何ノ貢獻ヲ爲セルヤハ、リストト雖モ夢想ダモセザリシ所タルベシ。最後ノ四隣圍マル

ルニ大陸軍國ヲ以テ威嚇セラレタル當年ノ獨逸ニアリテ、敢テ大海軍建設ノ急ヲ説ケル、蓋シ深く慮リ遠ク謀ルノ豪傑ノ士ニアラザレバ、克クセザル所タラン。

五

本稿ノ題句タラシメタル、豫言者トシテノフリードリヒ・リストノ偉大ナル偉ゲコソ、今ヤ此ノ項ニ於テ舒セントハスル提唱中ニ窺ヒ知ラルベク、亦タリストノ英靈ヲ空シクチロル河畔ニ遊離セシメタルモノモ、此ノ經世的主張ノ成否ト關聯スルモノナレ。英獨兩國ガ將來ニ於ケル對抗の二大勢力タルベキヲ豫言シ、今ニ於テ其ノ接近ヲ圖カリ理解ヲ促ガスニアラザルヨリハ、兩虎鬪搏ノ末路ニ逢着スベキヲ、力論シタルモノ即チ是レナリ。クンブマンニ從ヘバ、リストノ論策中最モ光彩ニ富ミ興味深キハ、此ノリストガ試ミケル、獨逸ノ諸列強ニ對スル合縱連衡策ヲ尤トスト云ヘルハ左モアルベシ。支那戰國ノ世ナラザル、奈翁戰戡定早々、近代獨逸ノ産メル此ノ張儀ハ、ソモ如何シノ秘策ヲ藏シテカ、克ク秦ノ大成ヲ圖レル。

リストノ佛露觀ハ極メテ簡單ナリ。謂モヘラク、歴史的ニ仇敵タル佛蘭西ハ絶エズ強大ナル武力ヲ以テ獨逸民族ノ領域ヲ嚇カスナリ、其ノ結果ハ倚ルベカラズ連ラナルベカラズ。國家生活ノ本能的偏見ニヨリ、不斷ニ領土擴張ヲ夢ミルノ露西亞亦タ、合縱ヲ憑德スベキニアラズ。剩マス所ニシテ、其ノ頼ルベキモノハ、單リ當年赫々ノ國運ヲ宣揚スルノ大英王國アル耳。英國ニ於テリストハ始メテ、獨逸ノ國際上ノ益友ヲ見出シタルナリ。リストタルモノ則チ説カザルベカラズ、往カザルベカラズ。既ニ贏チ得タル、米國ニ於ケル地位名譽ヲ抛チ、渠ヲ虐グルコト太ダシキ故國ニ還ヘリ

其ノ説ク所、行フ所ヲ排撃シテ措カザリシコブデン一派ト英國ニ往イテ交驩セルモノ、蓋シ之ガ爲メニ外ナラザルナリ。志士ナルカナ、國士ナルカナ。

リスト強調シテ論ズラク、「獨逸ハ露西亞ニ先ンジテ土耳其ノ保護權ヲ獲得スルニ銳意スベク、斯クテ之ニヨリテ英國ノ東洋殊ニ印度ニ到タルノ防護者タルベシ」ト。英國タルモノ豈ニ、カバカリノ餌ニヨリテ釣ラル、ノ味魚タルベキヤ否ヤ、ワレ之ヲ知ラズ。サレドリストガ之ヲ主張スルヤ熱烈、其ノ土耳其ニ垂涎スルノ熱情ニ至タリテハ、ヲサ／＼現獨帝ニモ劣ラザルモノアリシハ、想見スルニ足ラズヤ。而モ獨逸ノ東南的膨脹策ハ、當年內政ニ忙ハシカリシビスマルクニ採用セラレズシテ、比公ヲ退ケタル現獨帝ノ巨腕ヲ俟チテ遂ゲラレントス。然レドリストノ英獨攻守同盟論ハ、之ニ止ドマレルニアラス。

リスト天成ノ偉大ナル思索ト空想トハ、益々本質追求ノ深味ニ進ミ入ラントス。即チ英國接近ト英國ノ王霸トノ成立ヲ前提トシテ、凡ベテノ歐羅巴諸國民ノ大聯合ヲ提唱セルモノ是レナリ。歴史ト沿革トノ權威ヲ無視スルモノト嗤ヘバ笑ヘ。一九一四年前ノ perpetual peace propagandistsノ所業亦タ、之ニ近カラズトセンヤ。リストハ實ニ、英國ノ王霸ノ下ニ、歐羅巴合衆國 a great United State of Europe トモ稱スベキモノヲ出現セシメントハセルナリ。而カモ此ノ歐洲諸邦ノ大聯邦ハ、ソモ如何シノ結合カト衝動トニヨリテ、成立セラレントハスルゾ。玆ニコソ、其ノ七十年後ノ今日ニ於テ實現セラレタル、北米合衆國ノ大發達ヲ豫言セルモノアルナレ。即チ歐羅巴合衆國ハ、一世紀ナラザルニ大勃興ヲ遂ゲナントスル、カノ亞米利加合衆國ニ備ヘ、以ツテ東西半球ノ双方ノ國勢均衡

ヲ保タントスルモノナリ。渠曰ク、「偉大ナル米國民族ニ比較スレバ、暫クナラズシテ、英國ハ辛ウジテ和蘭ノ地位ヲ保ツニ過ギザラン。サレバ歐洲諸國ノ利益防衛ノ爲メニ、歐洲合衆國ヲ連盟建設シテ米國ノ「マリニズムス」ニ備ヘザルベカラズ。而シテ此ノ來タルベキ聯邦諸國ハ、英國ヲ宗トシテ其ノ霸權ニ從フベキモ、英國モ亦タ平等國中ノ一平等國タルニ甘ンズル底ノ憲法上ノ首席國タルニ止ドマルベシ。對獨逸貿易上ノ競爭ノ如キ、些々タル物質上ノ輸贏ニ没頭シテ、新興ノ一獨逸國ニ抗爭スルヲ知ツテ、而カモ國際政治大局ノ打算ヲ謬マル如クンバ、後世ノ人、必ズヤ大英國上下ヲ害フ、其ノ商人的政策ヲ嗤笑セン耳」ト。サレド仍ホ國論ヲ動カスニハ足ラズ。

英獨同盟論ハ、祖國永遠ノ計ノ爲メニ、須臾モ渠ノ腦中ヲ去ラザリシ思想ニシテ、其ノ晩年ニ於ケル經世眼ノ中樞タリキ。リスト最後ノ著述、「英獨同盟ノ價值及ビ條件ニ就イテ」ハ、言々句句紅血ヲ吐クノ愛國ノ大文字タリ。米國ヨリ歸來、渠ハ此ノ經綸ヲ齎ラシテ親シク英京ニ往キ、思ヒ出ハ深キ「穀物條例」ノ最後ノ撤廢ヲ目撃セルト共ニ、英國政治家ノ明星、殊ニ久シクモ鎬ヲ削リシコブデント交驩セルナリ。コブデン果シテ何トカ言ヘル。正統學派ノ偏見深ク膏内ニ入り、自尊心太ダ強クシテ、且ツ唯物的實際的ナル、英國政治家ヲ傾聽セシムベク、渠ノ經綸ハ餘リニ遠大ニシテ且ツ架空的ナリキ。コブデンノ、「卿モ復タ其ノ持說ヲ撤廢スベク、英國ニ來タラレタルカ」ノ一言ト共ニ、英國上下ハ、渠ノ晩年ノ思索ノ中心ヲ、冷カニ斥ケ了ヌ。此ノ憤懣、此ノ長大恨、抑ヘントシテ抑フル能ハズ。綿々トシテ盡クルナシ。其ノ英佛海峽ヲ越ユル幾千クナラズシテ、自ラ其ノ生命ヲ斷テルリスト悲劇ノ近因ガ、此ノ忿恨ニ盡クルハ、後チニゾ思ヒ知ラレケル。

フリードリヒ・リストノ悲劇、ソガ今日ノ大悲劇ニハ、誠トニ相應ハシキ前兆タラズトセンヤ。
發スルノ時ハ維レ、一八四六年十一月三十日、一九一四年七月二十八日。リストノ業績、今ニ貽リ
テ織ンナルハ、獨逸經濟學派ノ大樹鬱々タル、是レガ。其ノ國際政局ノ連衡策、今ニ殘リテ昌シナ
ラントスルハ、夫レ Back to List! ノ叫ビカ。而カモ是レ歐洲戰局ノ結果ヲ俟ツテ、始メテ國民ノ贊
否、決セラル、モノタルナキヲ得ンヤ。ア、「リストニ還レ」。(大正五年六月六日)